

# NAGOYA Ocean Times

～子ども記者が海の情報を体験・発信～

## 号外



# 名古屋港で“海”を体験

七月二十三日から二十五日の三日間、名古屋の海に関する新聞社「ナゴヤオーシャンタイムズ」社で記者体験ができるイベントが開かれた。これは、子どもたちを中心に海への関心や好奇心を喚起し、海の問題解決に向けたアクションの輪

を広げ、ことを目的に日本財団や政府の旗振りのもと、オールジャパンで推進する「海と日本プロジェクト」の一環として、愛知県内各地から五十二人の小学生が集まり、名古屋港

リエンテーションと、愛知県ライフセイビング協会との水川さんからの海の正しい遊び方やライフジャケットの正しい着用方法、海水浴場でよく見かけるクラゲ類やエイなどに刺された場合の応急手当てなど、海のそなえについてレクチャーを

を受けた後、二班に分かれて名古屋クルーズ体験と海洋清掃体験をした。名古屋クルーズ体験は、水上バスの船上で、海洋生物講師の田岡さんと保田さん(共に東山ガーデン)から名古屋港に棲む海洋生物や魚礁状況について学んだ。

この時期はススキやイワシ類などが見られ、冬にはサメも現れることを、海図を見ながら学習。さらに水上輸送路として活用された中川口通船門を通り、海と川で異なる水位を行き交う船のエレベーターを体験した。

海洋清掃体験では、海上輸送会社「名城ターグボート」の高松さんと黒川さんに密着取材。高松さんが自在に操る作業船に乗り込み、海洋ごみの清掃を体験した。また、船内ではクイズ形式で「海洋ごみの七ヶ



海に浮かぶごみを網ですくって集める子ども記者たち一名古屋港で



上 海ごみの特徴をクイズ形式で勉強した。  
中 水上バスで中川口通船門を通り、海の楽しさを体験。  
下 海の危険について学ぶ子ども記者。名古屋港ポートビルで

## 海のそなえと楽しさを伝える

### 子ども記者取材記

わたしはこのイベントでいろいろな体験をしました。そしてたくさん学びました。ゴミを外にそのまま捨てると、風にゴミがとんでいってしまうかのうせいがあるという事です。とくにプラスチックゴミは、リサイクルをできないから、ずっと海にういてしまうのです。そしてそのゴミを海の生き物が食べてしまいます。なので多くの人々が、海を守ると

### 40年ちかくのこってしまうプラスチックゴミ

いうことに協力しました。プラスチックゴミをあみでひろうたり、そうじをみんなでした。そして、その場にあってプラスチックゴミは少なくなり、来てはじめて見た時よりも、けっこうキレイになりました。そのゴミは、大きなゴミぶくろの三分の二くらいにたまっていました。ゴミはきちんとゴミばこにすてて、海をきれいにしましょう。



参加者は、三年生が十三人、四年生が十五人、五年生が十五人、六年生が九人の計五十二人。